

松江堀川の治水計画（案）に係る 意見募集結果について

意見募集結果概要

1. 意見募集等の概要

(1) 募集期間

- 平成23年9月15日（木）から平成23年10月14日（金）

(2) 意見の提出方法

- 電子メール、FAX、郵送

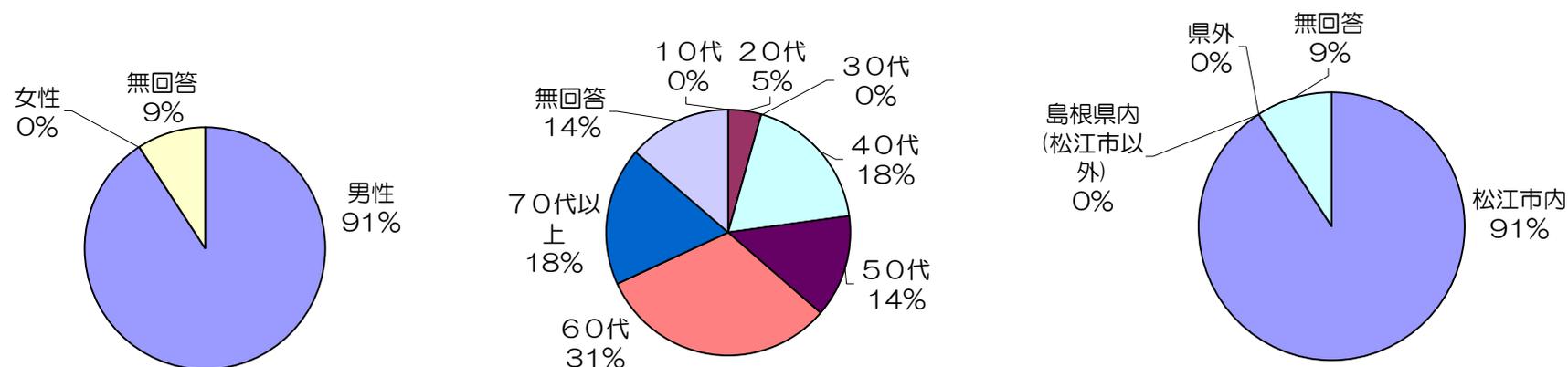
2. 意見総数

(1) 提出意見総数 22件

(2) 性別 男性、20件、無回答2件

(3) 年齢 20代1件、40代4件、50代3件、60代7件
70代4件、無回答3件

(4) 住まい 松江市内20件、無回答2件

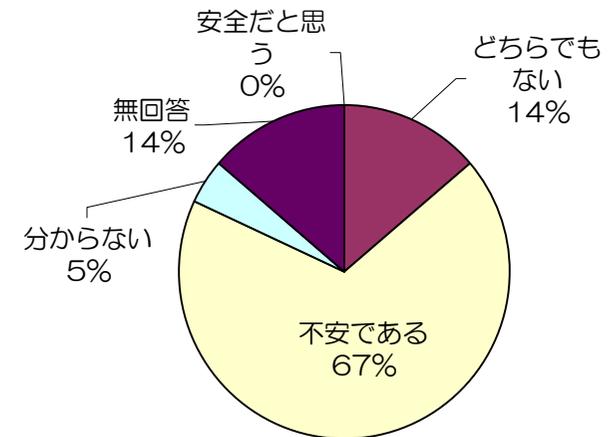


意見募集結果概要

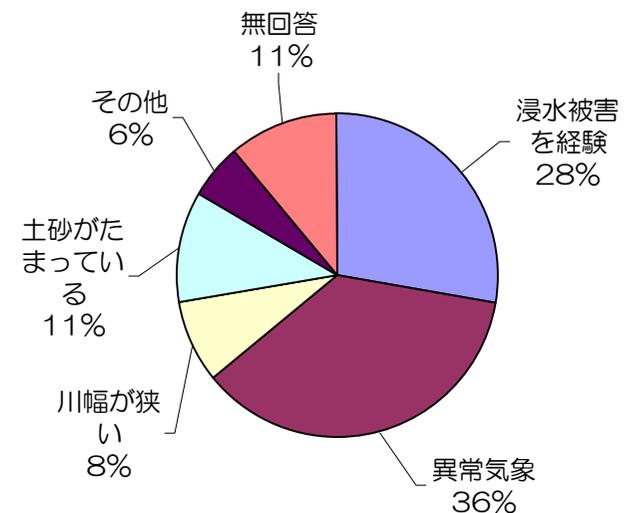
3. 結果の概要

◎現在の松江堀川について

○現在の松江堀川は、洪水に対して安全であるかどうか聞いたところ、不安であると感じている方が、全体の約7割を占めていた。



○前質問に対して、なぜ、不安だと思うか聞いたところ、過去に浸水被害を経験していたり、近年の異常気象により不安を感じている方が、全体の約65%を占めていた。

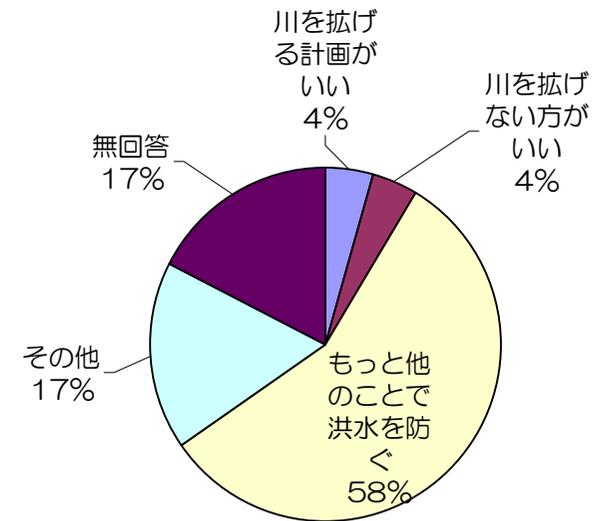


意見募集結果概要

3. 結果の概要

◎現在の松江堀川について

○現在は松江堀川の川幅を拡げることで洪水を防ぐ計画としていますが、このことについてどの様に思われるか聞いたところ、河川改修だけでなく、もっと他の対策で洪水を防いだほうが良いと感じている方が、全体の約6割を占めていた。



住民説明会概要

松江堀川治水計画について住民の理解を深めてもらうとともに直接意見を聴くために、1月～2月にかけて市内4箇所で住民説明会を開催

1. 概要

- 城東地区：1月23日（月） 26名参加
- 法吉地区：2月 7日（火） 30名参加
- 城北地区：2月10日（金） 9名参加
- 城西地区：2月14日（火） 18名参加



法吉地区



城西地区

住民説明会概要

2. 主な質問・意見・要望について

- 昭和47年災害から今日まで目についた工事をしたのは最近のように思える。今までどのような対策を行ってきたのか。
- この治水計画（案）は今後どれくらいの期間で計画が実行できるのか。こういった説明会はもっと早くやってほしかった。
- 北田川水門は常に閉まっていると思われるが、北田川水門が開くことがあるのか。
- 松江市街地は様々な氾濫形態があるが、松江市はすぐに中にたまってしまいうため、上流からの水をためることができるため池や洪水調整池の整備を考えたほうがよいと思う。
- 交融橋は車道や歩道が狭いため、非常に通りにくい。また、架設されてかなりの時間が経過しているため構造的なことも心配。
架け替えを計画するにあたっては、河川管理者だけでなく道路管理者と一緒に考えていただきたい。
- 意見募集の回答数について、松江市全体で22件は少ない。どのような方法で意見募集したのか。

松江堀川治水計画（案）に対する意見

項目	意見の要旨	意見に対する県・松江市の考え方(案)
全般	治水対策は、河道の掘削や堤防のかさ上げだけでなく、貯留・浸透施設の整備、森林保全、氾濫原管理、洪水の予測や情報の提供等含めて、幅広い方策を検討することが考えられる。	治水計画案を検討するにあたっては、第3回検討委員会において洪水時における下流の河川に対しての効果や経済性について評価、検討し、規模の大きい洪水に対して抑制効果の高い「ため池」「洪水調整池」「遊水池」「河川調整池」の4施設を治水対策としています。 貯留・浸透施設の整備、森林保全、氾濫原管理、洪水の予測や情報の提供等などは、浸水が頻繁に起きる地区への短期的、集中的な対応、計画規模を超える局地的な豪雨に対するソフト対策として、今後、検討していきます。
	3案の治水計画案を比較するために、これまでの評価軸に加え、時間的・財政的な制約等を加味した新たな評価軸を検討すべき。	今回提案した治水計画案につきましては、安全性、地域社会への影響、環境への影響、コストの評価項目で評価しておりますが、時間的・財政的な評価軸を加えて評価し、治水計画案を検討します。
	今回の治水計画案は、80年に1度の洪水に対してのものであるが、最近の降雨量はかなり多く、24時間雨量が500mmに達するところもあり、この計画では不安。	計画規模につきましては、松江堀川の流域面積、想定氾濫面積、資産額、人口や過去の洪水規模から決めており、その結果、おおよそ80年に1回程度発生する洪水の規模としています。 今後、地球温暖化の影響により、計画規模以上の洪水に対しては、被害軽減対策として情報伝達や防災活動等のソフト対策を進めることで対応していきます。

松江堀川治水計画（案）に対する意見

項目	意見の要旨	意見に対する県・松江市の考え方(案)
総合治水 対策	松江堀川上流域の住宅等には、各戸で雨水貯留施設を設置し、またそれを促す施策の実施を望む。	雨水浸透（貯留）施設につきましては、流域対策の選定を行った際、松江堀川へ流れ込む水の量を抑える効果が低いため、今回の治水計画案の対象とはせず、小流域の中小河川の洪水に対する活用が望ましいと評価しました。 今後、浸水が頻繁に起きる地区への短期的、集中的な対応、計画規模を超える局地的な豪雨に対するソフト対策として検討していきます。
	3案はよいと思うが、排水路を増やすことを考えてはどうか。	排水路（雨水下水）につきましても、今後検討していきます。
	上流部の開発にストップをかけ、できれば時間をかけて自然に治水能力を高める土地利用計画の策定を模索する必要があるのではないか。	松江市は都市計画において市街化区域と市街化調整区域に区分しており、堀川上流部の市街化調整区域では、原則、開発は制限されています。
	土地利用や宅地開発などにおいて、水害の危険性を考慮した計画づくりと許認可をする必要がある。	確かに過去の住宅開発等で市街化が進んだ区域も見られますが、現在では土地利用方針も策定し、法の運用もより開発抑制にあり、また農地法も改正され原則転用ができない集团的農地の規模も縮小されています。開発抑制については適切な法の運用ができるように都市計画、農政部局と連携を取りたいと考えています。なお、市街化区域では計画的に市街化を図る区域であり、現状の用途地域指定に加えての土地利用規制は難しいと考えています。
	不動産の物件紹介においても、過去の水害時の情報等について開示を義務付け、アドバイスや長期的には水害危険区域外へ誘導することも必要。 水害危険区域の居住者には、危険度に応じて「災害復旧基金」等の積立を義務付け、災害後の経済的負担を軽減する措置をとることが必要。	個人情報保護の観点や個人の生活に制限を加えることにもなりかねず、現段階においては難しいと考えます。

松江堀川治水計画（案）に対する意見

項目	意見の要旨	意見に対する県・松江市の考え方(案)
流域対策	普段は親水公園や広場、駐車場に使っている湖岸周辺の公用地や、農用地等民地を遊水池として利用するのが、経済性、景観だけでなく、自然環境にとってもよいことだと思う。	遊水池につきましては、上流から松江堀川に流れ込む水の量を少なくすることにより、河道への負担を抑えることを目的に、松江堀川上流にある水田等の平坦地を対象として検討しております。
	中途半端な遊水池は溜まった水が凶器にもなりえるため、あまりよい方策ではない。	洪水時に溜まった水を流す方法につきましては、放流することで下流が浸水する恐れがないよう、実施する段階で管理操作方法等検討していきます。
放水路	出水時に末次ポンプ場から排出される水の影響と思われるシジミのへい死が発生しており問題となっている。また、治水の面からも、より下流への排出が必要。	放水路を設置する場合は、排出先が宍道湖であるため漁業関係者と充分調整を行い、進めてまいります。
	効果も期待されるかもしれないが、治水安全上リスクが大きいように思われる。	放水路につきましては、大橋川の水位が高くなった場合は水門を閉めなければいけません。 その場合の内水対策についても検討を行いますので、治水安全上のリスクはないと考えております。
	1.55mの幅では不足。もっと広い幅が必要。	放水路の幅につきましては、今回提案していただいた案も含めて検討します。
	放水路の排出口の構造物は、景観に配慮したデザイン、方法を検討すべき。	放水路を設置する場合は、景観に配慮したデザイン、方法で検討します。また、現在の末次ポンプ場及び水門はそのまま使用します。
河川改修	小規模な遊水池を数箇所設けるよりかは、河川の幅を1.0m広げた方が効率が良いと思う。	松江市街地においては、川の拡幅は相当なコストと時間を要します。そのため、今回の治水計画案は、河川改修だけでなく、流域対策や放水路を組み合わせた総合的な治水対策として検討しております。
	比津川、中川の河川改修が必要。	中川につきましては、現在河川改修を行っているところです。また、比津川につきましても、今後検討していきます。

松江堀川治水計画（案）に対する意見

項目	意見の要旨	意見に対する県・松江市の考え方(案)
内水対策	すでに大橋川改修計画の中で内水排出ポンプの設置が計画されているため、自己流対策用として増設、再配置するような、大橋川とセットで内水対策を考えるという視点を持ってほしい。	大橋川の水位が低い時に松江市街地に大雨が降った場合は、松江堀川から大橋川へ、直接大量の水を流すことができます。 しかし、その状態で水門を閉めると大量の水をポンプで排出するための大規模なポンプを設置しなければいけません。よって、排水ポンプについては内水対策用として増設することを検討していきます。
環境	グリーンインフラ（屋上緑化・屋根緑化、レインガーデン等）を用いて、生態系を残しつつ人間と自然が上手く付き合える社会・文化の基盤が作れたらと考える。	環境面につきましては、今回いただいた意見のほか第3回検討委員会にて「城下町になじまないような生態系にならないように、在来種が住めるような工夫を啓発とともにしていただきたい。」との意見もありましたので、充分配慮するよう努めていきます。
	川幅を拡げれば、多くの生息している生き物に悪影響を与え、今の生態系を壊してしまう。 松江堀川は生物にとっても貴重な場所。河川改修などにより生物がすみにくい川にしないよう工夫してほしい。	河川改修を行うことにより生物等に対してどのような影響があるのか、今後検討した上で整備を進めていきます。

松江堀川治水計画（案）に対する意見

項目	意見の要旨	意見に対する県・松江市の考え方(案)
新たな提案	<p>現在、松江堀川に塩分を含んだ宍道湖の水が導水されていることから、朝酌川下流に農地があるため、北田川が常時閉まっております。宍道湖から松江堀川への導水を中止し、淡水を導水して京橋川水門から朝酌川の水を流し、北田川水門で排出する流れにしたらどうか。</p>	<p>現在、宍道湖の湖水を松江堀川の浄化用水として通年導水を行い、水質を保ち、常時は、朝酌川に塩分濃度の高い水が流入しないよう、北田川水門を閉め、向島川より排出しています。 しかし、一定規模の洪水が発生し、朝酌川より北田川の水位が高くなると、松江堀川の水を朝酌川へ排出するため、北田川水門は開門することとしています。 よって、水門は洪水時に機能していますので、治水上のネックにはなっていないと考えています。</p>
	<p>黒田方面の松江堀川から佐陀川に強制排水路をつくり、佐陀川の川幅を拡げる案はどうか。</p>	<p>今回の治水計画案では、松江堀川から大橋川、朝酌川に流下する計画として検討しました。他流域（佐陀川）への分流は、分流先との調整等が長期にわたると予想されるため、検討から除外しました。</p>
	<p>堀川の水は、朝酌川に排出すべきだと考える。実現のためには、汽水である堀川の水を放流することになるため、朝酌川下流の農地への新たな農業用水を確保する必要がある。川の農地側に小さな水路を作り、上流側に移動した水門から淡水を引き、さらにこの水路を利用して、水門を上流に移した際の水位の上昇に対応できるようにしてはどうか。</p>	<p>朝酌川に設置してある手貝水門を上流に移設すると、既存の利水容量の確保が困難であるため、現時点では難しいと考えます。</p>